

# 理 科

## I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

<b>1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長</b>	
共通 観点	(1) 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成、「本県教育が目指す人間像」の育成に資する内容、構成となっているか。
	(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
<b>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</b>	
共通 観点	(1) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。
	(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。
	(3) 主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。
教科 独自 観点	(4) 日常生活との関連を図り、体験的な学習活動を充実させることができるよう工夫されているか。
	(5) 観察、実験は、目的意識をもって取り組むことができるよう工夫されているか。
	(6) 観察、実験等における、安全面への配慮はなされているか。
<b>3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長</b>	
共通 観点	(1) 文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。
	(2) 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3) レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

## II 選定資料利用上の留意点

- 1 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 2 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 3 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

Ⅲ 具体項目

理科

観点	発行者	東 書	大日本	学 図	教 出	啓林館
<p>1. 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長</p>	<p>(1) 教科の特質を達成し、構成となっているか。「教育の目的」「人間像」の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み物資料「世界につながる科学」「つながる科学」を単元末や章末に掲載し、希少動物を紹介したり、生物のつくりや働きの精妙さを取り扱ったりすることで、生命を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。</li> <li>3年終章に「持続可能な社会をつくるために」を設けたり、「世界につながる科学」で環境に関する話題を取り扱ったりすることで、環境保全への意識を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の生態観察では生物に負担のかからない方法を掲載したり、読み物資料の安全に関する話題には「安全」マークを付けたりすることで、生命を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。</li> <li>3年終章で「持続可能な社会にする方法」について学習を深めたり、環境や資源にかかわる話題には「環境」マークを付けたりすることで、環境保全への意識を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命領域のはじめに、「生物を大切にし、むやみに傷つけないこと」を記載したり、3年巻頭折込や章末などに、自然災害から身を守ることを取り扱ったりすることで、生命を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。</li> <li>3年最終単元で「自然・科学技術と人間」を設定し、中学校理科のまとめとして自然と人とのかかわりについて考えさせることで、環境保全への意識を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻末に本学年と次学年の学習内容を掲載し、段階的に「生命」の領域を学習することを明示したり、生物のつくりや働きの精妙さを認識できる観察、実験を多数取り扱ったりすることで、生命を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。</li> <li>読み物資料で、自然環境の保全に関する話題を取り上げたり、3年最終単元で自然環境と人間のかかわりについて学習を深めたりすることで、環境保全への意識を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の構成において、「生命」の領域を各学年の最初に配置し、自然界に生息する様々な動植物の写真や生物の進化、命の連続性についての解説を掲載することで、生命を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。</li> <li>読み物資料で「環境マーク」を表示したり、3年「環境」領域において人間の生活が自然環境に与える影響を学習したりすることで、環境保全への意識を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>
	<p>(2) 学史的・自然史的・文化的・科学的・社会的・環境的・産業的・芸術的・科学的・社会的・環境的・産業的・芸術的・科学的・社会的・環境的・産業的・芸術的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年では「いろいろな火山」「雲仙普賢岳における火砕流などに警戒が必要な範囲」「火砕流のあと」において、3年では「雲仙岳災害記念館」において、本県の自然や施設の写真や資料を扱うことで、本県の自然を題材とした学習ができるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年では「雲仙普賢岳」「リアス海岸のようす（九十九島）」「雲仙普賢岳と伊豆大島の形と噴火のようす」「マグマのねばりけが強い火山」「雲仙岳災害記念館」「塩パークを見学してみよう」において、2年では「長崎市の夜景」「生物を見に行こう」において、本県の自然や施設の写真を扱うことで、本県の自然を題材とした学習ができるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年では「マグマのねばりけと火山の特徴」「火砕流のようす」において、3年では「学校外で調べよう！」において、本県の自然や施設の写真を扱うことで、本県の自然を題材とした学習ができるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年では「日本の主な火山の分布」「火山噴火の様子」「世界ジオパーク島原」において、3年では「雲仙火山の噴火で被災した旧大野木場小学校」において、本県の自然や施設の写真を扱うことで、本県の自然を題材とした学習ができるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年では「浜辺の砂など」「平成新山の噴火中・噴火後のようす」「溶岩のねばりけのちがいがいい」「泥流・土石流の跡」「サイエンス資料」「世界遺産明治日本の産業革命遺産の1つ」において、3年では「太陽光発電」において、本県の自然や施設の写真を扱うことで、本県の自然を題材とした学習ができるようになっている。</li> </ul>

Ⅲ 具体項目

理科

発行者		東 書	大日本	学 図	教 出	啓林館
2	<p>学習指導要領の上での特長</p> <p>育 成 指 導 要 領 の 目 標 や 内 容 等 を 踏 ま え て 、 確 か な 学 力 の</p>	<p>(1) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験の手順や操作上の注意事項を「基礎操作」として示すとともに、各章末に学習内容をチェックする問題や単元末に「学習内容の整理」「確かめと応用」を設けることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。</li> <li>各単元のはじめに「これまでに学んだこと」を示すことで、学習内容のつながりを意識することができるように配慮するとともに、つまづきやすい内容には「例題」「練習」「確認」を設定することで、理解することができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験を行う上で必要な「基本操作」を示すとともに、「まとめ」や「単元末問題」「読解力問題」「学習のまとめ」を設けることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。</li> <li>各単元のはじめに「これまでに学習したこと」を示し、既習事項を振り返った上で学習に取り組ませたり、つまづきやすい内容には「例題」と「解答例」を付けたりすることで、理解することができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付ける知識・技能を「Can-Do List」で明示するとともに、章末に「Can-Do List自己チェック」に「単元のまとめ」や「単元末問題」を設けることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。</li> <li>各単元のはじめに「ふり返ろう・つなげよう」を示したり、本文中に「ふりかえり」を設定したりして関連する既習事項を掲載することで、学習内容を繰り返し確認し、理解することができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験において使用頻度の高い器具を「基礎技能」でまとめて掲載するとともに、「要点と重要事項の整理」「基本問題」「学年末総合問題」を設けることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。</li> <li>各単元のはじめに「これまでの学習」を示したり、単元中に「思いだそう」を掲載したりすることで、既習事項を振り返り、関連する学習内容を繰り返し確認し、理解することができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験を適切に行うためのポイントを示すとともに、「基本のチェック」「学習のまとめ」「力だめし」「学年末総合問題」を設けることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。</li> <li>章ごとに、本文中に「つながる学び」、「思いだしてみよう」を示したり、「つながるページ」で他の領域における関連内容を示したりすることで、学習内容を繰り返し確認し、理解することができるよう工夫されている。</li> </ul>

Ⅲ 具体項目

理科

観点		発行者	東 書	大日本	学 図	教 出	啓林館
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長	(2) 知識・技能を活性化して課題を解決するためのこと		<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題」や「分析解釈」など探究の過程において、話し合っているキャラクターで考える視点を示すことで、言語活動を通して思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。</li> <li>本文の課題に対し、自分の考えを文章でまとめる「課題に対する結論を表現しよう」を設けることで、習得した知識・技能を活用しながら思考力、判断力、表現力等を高めることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究の過程「問題を見つけよう」「計画を立てよう」「話し合おう」においてキャラクターの会話場面を掲載し、対話的な学びを促すことで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。</li> <li>学習内容を活用して考えたり、表現したりする「読解力問題」や、自ら課題を見つけ探究する「自由研究にチャレンジしよう」を設定することで、思考力、判断力、表現力等を高めることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験において探究の過程に沿った場面を設定するとともに、結果と考察を明確に分け、結果に基づいて考えさせることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。</li> <li>各単元末の「学びを日常にいかしたら」において、自己の考えを文章表現する課題を多く設定することで、思考力、判断力、表現力等を高めることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験前後の「考えよう」「話し合おう」において、キャラクターが会話している場面を掲載し、対話的な学びを促すことで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。</li> <li>学習内容の区切りに日常生活において見られる現象などを考える「活用しよう」を設けることで、習得した知識・技能を活用しながら思考力、判断力、表現力等を高めることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験において、結果と考察を明確に分けたり、「考えてみよう」「表現してみよう」を設定したりすることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。</li> <li>実験計画などを自分で考える「探Q実験」や学習した内容を活用する「力だめし」「学年末総合問題」を設けることで、思考力、判断力、表現力等を高めることができるよう工夫されている。</li> </ul>
	(3) 主体的に学習に取り組む態度を身に付けること		<ul style="list-style-type: none"> <li>各節ははじめの「レッツ・スタート」で、問題に気付いたり疑問を感じたりする場面を設定することで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>各章の学習前と学習後に「Before&amp;After」を設定し、同じ問いについて考えさせることで、生徒が自らの成長を実感でき、学ぶ意味や必然性を感じることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元のはじめに「これまで学習してきたこと」「これから学習すること」を提示し、学習の見通しをもたせることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>巻頭に学習内容に関連した職業を紹介したり、単元のはじめに大きく写真や資料を示して知的好奇心を高めたりすることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験のはじめに「気づき」の場面を設け、気づきや疑問から課題を設定する流れを示すことで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>各章の終わりに、章のはじめで確認した、身に付けるべき力「Can-Do List」を振り返る活動を設定することで、自己の学びの高まりを感じることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭に「探究の進め方」を設け、各ステップの意味や留意点などを示すことで、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>学習モデルとなるキャラクターのやり取りを通して、課題解決に向けた方向性や視点等を示すことで、活動のイメージをもちながら主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元や章のはじめに知的好奇心を高める写真や資料を示すことで、課題意識をもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>単元ははじめの「学ぶ前にトライ」と単元末の「学んだ後にリトライ！」で同じ問いについて考えさせることで、自己の成長を実感し、学ぶ意味や必然性を感じることができるよう工夫されている。</li> </ul>

III 具体項目

観点	発行者	東 書	大日本	学 図	教 出	啓林館
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</p>	<p>(4) 日常生活との関連を図り、体験的な学習活動を充実させることができるよう工夫されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「つながる科学」や「世界につながる科学」などのコラムを掲載することで、学習した内容と日常生活や社会との関連を振り返ることができるよう工夫されている。</li> <li>身近な材料でできる「どこでも科学」では、「地震が起こるしくみ」(1年)において、こんにやくを使った実験を通して、地震の仕組みを体感させるなど、体験的な学習活動を充実させることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み物資料「くらしの中の理科」や「Science Press」を掲載することで、日常生活や社会との関連を図りながら学習内容の理解を深めることができるよう工夫されている。</li> <li>身のまわりのものを用いた「やってみよう」では、「心臓のはたらき」(2年)において、給油ポンプを使った実験を通して、心臓が血液を循環させる仕組みを視覚的に捉えさせるなど、体験的な学習活動を充実させることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭の「ミッションX」や本文中の「サイエンスカフェ」や「資料」を掲載することで、日常生活との関連を図りながら学習を進めることができるよう工夫されている。</li> <li>自ら活動するものづくり「やってみよう」では、「凸レンズによってできる像」(1年)において、望遠鏡を作る実験を通して、凸レンズの性質を理解させるなど、体験的な学習活動を充実させることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み物資料「ハローサイエンス」を掲載することで、理科で学習する原理や規則性などが日常生活や社会で活用されていることについて理解を深めることができるよう工夫されている。</li> <li>生徒の創意工夫を生かす「チャレンジ」では、「ミョウバンの結晶づくり」(1年)において、大きな結晶を作る実験を通して、再結晶の様子を視覚的に捉えさせるなど、体験的な学習活動を充実させることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学コラムや読み物資料「ひろがる世界」を掲載することで、学習した内容と実生活や実社会との関連を図り、学習内容を広げ、深めることができるよう工夫されている。</li> <li>「深めるラボ」のものづくり活動では、「発電機のしくみ」(2年)において、電磁調理器を使った実験を通して、電磁誘導の働きを体感させるなど、体験的な学習活動を充実させることができるよう工夫されている。</li> </ul>
	<p>(5) 観察、実験は、目的意識をもつて取り組むことができるよう工夫されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元のはじめの「問題発見レッツスタート」で身近な疑問を導入にしたり、観察、実験の前に仮説や調べ方を考える場面を設けたりすることで、目的意識をもって取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>観察、実験では、冒頭に「観察(実験)の目的」を明記したり、実験の手順を「ステップ」として示したりすることで、観察、実験の目的や意義を意識して取り組むことができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験の前に「話し合おう」「計画を立てよう」などの話し合う場面を設けるとともにキャラクターのセリフで着眼点を示すことで、目的意識をもって取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>観察・実験の結果から分かることやまとめを次ページに掲載する構成にし、安易に結論が目に入らないようにすることで、目的意識をもって取り組むことができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験を「探究」と位置付け、はじめに「気づき」の場面を設定し、観察、実験の目的を焦点化することで、目的意識をもって取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>観察、実験では、「この時間の課題」としてそれぞれの課題を明示することで、目的意識をもって取り組むことができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験の課題をマークと枠囲み・太文字を用いて明確にするともに、キャラクターを用いて疑問や着眼点を示すことで、目的意識をもって取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>観察、実験の目的を明示するとともに、記録用紙やグラフなどの結果の整理方法を示すことで、目的意識をもって取り組むことができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験の前に「考えてみよう」「話し合ってみよう」などで、課題に対する仮説や予想・実験計画などを考える場面を設けることで、目的意識をもって取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>観察、実験では、「目的」「方法」「結果」「考察」の一連の流れを左側に整理して示し、各ステップを確認しやすくすることで、目的意識をもって取り組むことができるよう工夫されている。</li> </ul>

Ⅲ 具体項目

理科

発行者		東 書	大日本	学 図	教 出	啓林館
観点						
2 の 特 長 学 習 指 導 要 領 の 目 標 や 内 容 等 を 踏 ま	(6) 観 察 、 実 験 等 に お け る 、 安 全 面 へ の 配 慮 は な さ れ て い る か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>注意事項を朱書きにしたり、「安全のための注意」をマークで示したりして目立たせることで、生徒が安全に留意して取り組むことができるよう配慮されている。</li> <li>巻頭や巻末に、資料として「理科室の決まり」「薬品の性質ととりあつかいの注意」を掲載するなど、観、察、実験において、安全面に配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>注意事項を黄色の背景色や「注意」のマークで目立たせることで、生徒が安全に留意して取り組むことができるよう配慮されている。</li> <li>巻頭や巻末に「理科室のきまり」「薬品の扱い方」「薬品をとり扱うときの注意」などをまとめて掲載するなど、安全面に配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険防止が必要な箇所は、「ストップ」のマークと、背景色を変えた朱書きで注意喚起することで、安全面に配慮されている。</li> <li>1年の巻頭に、「実験室を使うコツ」を掲載し、観察、実験ごとに写真・イラストで操作や注意を表示するなど、安全面に配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全にかかわる事項を、「禁止」「注意」「指示」など五つのマークを用いて示すとともに、朱書きで目立たせることで、安全面に配慮されている。</li> <li>巻頭や巻末に、「理科室のきまりと応急処置」「主な物質・試薬の一覧」「器具の扱い方」を掲載するなど、安全面に配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>九つの注意・安全のマークを用いるとともに、注意事項を朱書きで明記することで、生徒が安全に留意して取り組むことができるよう配慮されている。</li> <li>「エネルギー」「粒子」の領域において「実験を正しく進めるために」「観察(実験)のスキル」を掲載するなど、安全面に配慮されている。</li> </ul>
3 記 入 の 表 現 や 体 裁 の 特 長 学 習 効 果 や ユ ニ バ ー サ ル デ ザ 見	(1) 質 量 は 、 分 か り や す く 、 適 切 な 記 述 と な っ て い る か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元はじめの「この単元で学ぶこと」で学習内容を見通すとともに、単元末の「学習内容の整理」で、重要語句について振り返ることで、学習内容を理解することができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書マークを付けて、用語や記号の意味を分かりやすく記述したり、単元末に「キーワード」の欄を設けてチェックボックスで確認できるようにしたりすることで、学習内容を理解することができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間の「課題」と「まとめ」をセットで記載し、その課題を解決するための「見方・考え方」を明示することで、学習内容を理解することができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平易な文章で記述し、ふりがなも豊富で読みやすくするとともに、欄外の脚注が多く、図表・写真について必要に応じて説明することで、学習内容を理解することができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元はじめの「学びの見通し」で学習内容を見通すとともに、単元末の「学習のまとめ」で、重要語句について振り返ることで、学習内容を理解することができるよう配慮されている。</li> </ul>

Ⅲ 具体項目

理科

観点	発行者	東 書	大日本	学 図	教 出	啓林館
<p>3 表記・効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの</p>	<p>(2) 写真や高真、挿絵、効果とも、図表などに十分配慮されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表紙や各単元、各章のはじめに学習内容にかかわる大きな写真や挿絵を掲載することで、興味・関心を高めることができるよう配慮されている。</li> <li>本文中の既習事項や他教科との関連事項にアンダーラインを引き、脚注を付けることで、記述内容を理解することができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挿絵は、詳細なものと同略化したものを場面によって使い分けることで、理解を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>各学年の巻末に、科学館や博物館、動物園や水族館、ノーベル賞授賞者の写真を数多く掲載することで、科学への関心を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元のはじめや本文中に、学習内容に対応した大きく鮮明な写真を用いることで、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。</li> <li>学習過程の中でポイントとなる箇所や疑問を感じさせたい箇所などを、挿絵と吹き出しで示すことで、理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「見落としがちな日常生活の1コマ」や「珍しい瞬間や事象」の写真を多く用いることで、課題解決の意欲を高めることができるよう配慮されている。</li> <li>「ハローサイエンス」において、学習内容に関連する様々な写真を掲載することで、科学への関心を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元のはじめには、生徒の興味・関心を高める大きな写真を掲載し、学習対象や観察、実験方法を図表や挿絵で示すことで、理解を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>学習内容に対する疑問や分かったことなどを、親しみやすい挿絵と吹き出しで示すことで、学習意欲を高め、理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>
	<p>(3) レイアウトや色紙質、文字の大きさ、挿絵の活用や配慮されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元全体を通して探究の過程に沿ったレイアウトに統一するとともに、各ページで扱う過程を表示することで、それぞれの活動の位置付けを確認することができるよう配慮されている。</li> <li>巻末に切り取って使用できる「地球」領域の立体資料を添付することで、理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとに、章名や背景の色を統一するとともに、学習活動ごとに共通のアイコンを示すことで、学習の流れが分かりやすくなるよう配慮されている。</li> <li>各単元のまとめでは、キーワードや公式、要点の背景に着色することで、視覚的に理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験の場면을探究の過程に沿ったレイアウトに統一し、学習場面を矢印で結ぶなどすることで、見通しをもって学習できるよう配慮されている。</li> <li>巻末にホワイトボードとして使用できる「アイデアボード」を添付することで、意見交換の際に活用することができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図や注釈を本文の横ではなく縦方向に配置することで、上から順に読み進めやすくなるよう配慮されている。</li> <li>巻末に切り取って使用できる資料を添付することで、内容理解の補助となるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ページに多くの図や写真、挿絵を掲載し、本文は一定幅で下部に配置することで、読みやすくなるよう配慮されている。</li> <li>巻末に切り取って使用できる「探Qシート」を添付し、探究の過程の充実を図ることで、理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>